

第3回

須賀川駅周辺地区ワークショップの記録



当日の流れ

16:00～ あいさつ・振り返り

16:05～ 講義「都市計画・まちづくりの見聞録」
(福島大学 川崎准教授)

16:30～ ワークショップ

17:15～ 発表

17:30～ 終了



◆ 日時：令和元年 12月4日(金) 16:00～17:30

◆ 場所：須賀川市役所 4階 大会議室

◆ 参加者：55名 (A班11名、B班12名、C班10名、D班11名、E班11名)

まちづくりの事例に関する講義

『都市計画・まちづくりの見聞録』

(福島大学 川崎准教授)

● 鞆の浦

潮待ちの港として栄えた景勝地。広島県が1983年に港の埋立・架橋計画を公表。一人の女性が立ち上がり、2007年に埋立免許差止訴訟を提訴。2016年に広島県が免許交付申請を取下げの意向を示し、訴訟が終結。この事例は、住民と行政と一緒に地域の特性を考え、これを活かしたまちづくりを進めることで、まちの持続可能性が高まる可能性を示唆している。ワークショップに参加している高校生や地元の方々には、自分たちが須賀川駅周辺地区でどのようなことができるかという観点からも考え、意見を出してもらえれば。

● 尾道

かつて茶園文化とともに栄えた斜面都市。車社会への転換や人口減少・高齢化などにより空き家が急増。衰退しきった町に一人の女性が立ち上がり、2007年より空き家再生に関する活動を実施。この事例は、鞆の浦の事例と同様に、まちづくりやまちの活性化には、行政のみならず、住民自身の取り組みが重要であることを示唆している。須賀川駅周辺地区が抱える問題を把握・解消し、地区の特性を活かした活性化を実現するためにも、ワークショップに参加している高校生や地元の方々には、自分たちがどのようなことができるかという観点からも考え、意見を出してもらえれば。



ワークショップ

A~D班は、さらに二つに分かれて合計9班集体制でワークショップを行いました。
(自分の意見を付箋に記入→班で共有)



A-1~D-8班 『まちづくりの テーマ決め』

まちづくりのテーマ、その
テーマを選んだ理由・経緯に
ついて話し合いました。

ワークショップ
のテーマ

E班 『ワークショップ 広報部』

情報のやりとりの方法ベスト3
を挙げました。

~各グループの成果~

A~D班

A-1 駅も人も輝ける まちづくり	A-2 私達の私達による ベストなまちづくり
B-3 にぎわいと健康	B-4 まじ 芸術で交流する駅
C-5 高校生が作る季節毎に 変化するインスタ映えな町	C-6 にぎわいがある。5年後 の彼氏に自慢できるメロンパン & 9ピオカタン
D-7 電車に乗らなくても 来なくなるカネみたいな駅	D-8 須賀川の魅カを 高校生が発信できるまち

E班

E デジタル	A+ログ
① ツイッター	① ともだち
② インスタ	② ホスター、556
③ テレビ	③ 情報誌

A～D班 まとめ①

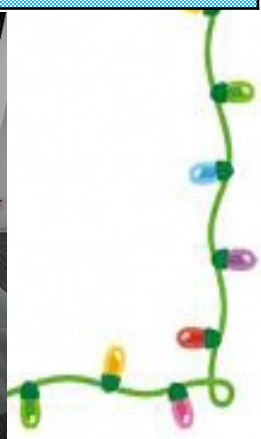
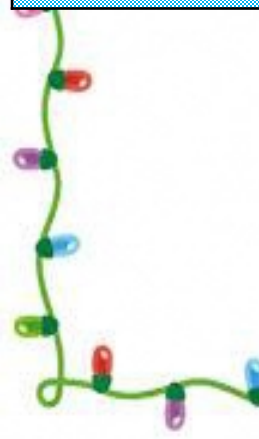


班	まちづくりのテーマ	そのテーマに決めた理由・経緯
A-1	駅も人も輝けるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・駅がぱっとしない。（須賀川の良さが分かりづらい） ・学生が部活やイベントを主体的にできる場所や機械が少ない。 ・3K（川崎プロジェクト、きらきら、高校生）
A-2	私たちが考えるベストなまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全なまちづくり（道路・公園・照明） ・空間（勉強スペース、買い物、景観） ・集まる場所（店舗、イベント、写真スポット）
B-3	賑わいと健康	<ul style="list-style-type: none"> ・タピオカなど流行のお店があれば若者が集まると思うから。 ・ウォーキングやドッグランができるスペースがあれば健康志向のお年寄りも集まると思うから。
B-4	芸術で交流する駅	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術に力を入れている学生が多く、活躍の場になるから。 ・イベントに生かすことができるから。

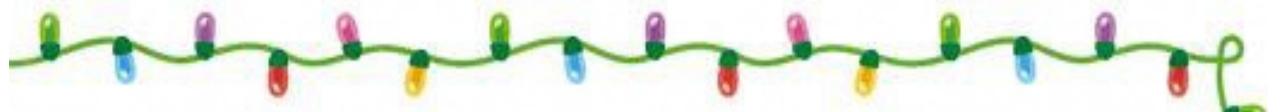
A班の様子



B班の様子



A~D班 まとめ②



班	テーマ	理由・経緯
C-5	高校生が作る、 季節毎に変化する インスタ映えする町	若い知識や、感覚を活かしてインスタ映えする町を作り、季節ごとに変化することで影響力のある人たちが数回来てくれる。これによって、地元からも他の地域からも人が来てくれると思うから。
C-6	賑わいがあって、 5年後の彼氏に自慢できる メロンパン&タピオカタウン	食べ歩きができる、おしゃれなカフェ、イルミネーションなど、将来自分の住んでいた町を自慢できるような賑わいのある町にしたいと思ったため。
D-7	電車に乗らなくても来なくなる カフェみたいな駅	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいがあり、また来たくなくなると思える場所が良いから。 ・誰でも気軽に休憩できる場所が欲しい。 ・パン屋やカフェを入れたい。
D-8	須賀川の魅力を 高校生が発信できるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・須賀川駅周辺には何も無いように見えて、魅力的な場所や景色がたくさんあり、それを発信したいから。 ・高校生が発信することで、若者の集客が見込める。また、須賀川の魅力を若い世代に継承していけるから。

C班の様子



D班の様子



E班 まとめ

普段どのように情報のやり取りをしているかを考えよう

デジタル部門

- ・ ツイッター
- ・ インスタグラム
- ・ LINE
- ・ YouTube
- ・ google
- ・ テレビ
- ・ ラジオ



アナログ部門

- ・ 友達
- ・ 親
- ・ 学校の先生
- ・ ポスター
- ・ 情報誌 (すかつと)
- ・ 本
- ・ 新聞



E班の様子



デジタル部門

- 1位 ツイッター
- 2位 インスタグラム
- 3位 テレビ

アナログ部門

- 1位 友達
- 2位 ポスター、チラシ
- 3位 情報誌

次回のワークショップ

日時：1月8日(水) 16:00～
場所：須賀川市民交流センター
内容：
・ 第3回で考えたテーマを掘り下げたうえで、発表する
・ 川崎准教授による講評